

部局間協定記念講演会

「フィンランドのイノベーション戦略」 Jyväskylä大学 Aino Sallinen 学長



本学 社会理工学研究科では、このたびJyväskylä大学(フィンランド)IT学部ならびにアゴラセンターと、部局間協定を締結することになりました。

それにもなつて、3月5日に同大学のAino Sallinen学長が来日され、協定書の調印を行います。そこで、調印後に、「フィンランドのイノベーション戦略」という題目で、ご講演をお願いいたしました。

皆様奮ってご参加ください。

日時:平成21年3月5日(木)15:00~16:00

場所:西9号館4F414号室

題目:“University of Jyväskylä

and Finnish Innovation Policy“

講演者:Aino Sallinen学長(Jyväskylä大学)



- ユバスキュラ大学)は、1934年に設立されたフィンランドのユバスキュラ市にある大学で、約16,000名の学生と2,600名の教職員を擁する、フィンランドを代表する大学である。ユバスキュラ市は、フィンランド首都のヘルシンキの北方約300kmのところに位置する、中核都市(フィンランド第9位)のひとつで、人口128,000人である。すなわち、市の約1/6が学生か教職員という、まさに、大学の街である。
- ユバスキュラ大学は、教育学でよく知られており、最近日本でベストセラーになった「フィンランド豊かさのメソッド」(集英社新書)は、ユバスキュラ大学で教育学を学んだ著者(堀内都喜子氏)の体験を綴ったものである。周知のように、フィンランドはPISAでトップの成績をここ数年収めており、その教育法について、わが国でも関心が高まっている。
- 一方、ユバスキュラ大学は、教育学だけでなく、アゴラセンターという産学連携のセンターを有し、オープンイノベーション研究でよく知られている。Human Technology Cityというのが、ユバスキュラ市のキャッチフレーズであるが、これは、まさに、「技術の利活用」という、本研究科国際大学院プログラムのテーマ「Effective Utilization of Technology」に通じるものである。
- Aino Sallinen学長は、TEKES(フィンランド技術庁、日本のMETIに対応)やStrategy of COEのボードメンバーという要職にもついでいらっしゃる。